



コドモとオトナのアイダ

dm edit



For adult only

mechi

「あの、初診で…診察の予約をお願いしたいです、診察券の番号はM48640」

『…M48640、ご希望の診療科は？』

「…その、婦人科を…」

セント・バーソロミュー病院の予約担当の女性が、電話口の向こうで僕を訝しむのがわかった。

僕だって、ネットで予約できるなら喜んでそうした。でも、初診の申し込みは電話でしかできなかった。

『…シールズさんですね？御本人の予約でよろしいですか？』

「…はい、お願いします…できたら、女性のお医者さんにお願ひしたいです」

詰まる喉から、なんとか言葉を絞り出した。

『どこからか、紹介状はありますか？』

「…ありません」

『失礼ですが、婦人科をご希望の症状などを伺ってもよろしいですか？』

「その…」

「…」

「……ジョセイキが、あるので、診てほしいんです」

先程まで不審感を隠さなかった声が、急に『わかりました』と義務的になった。

『…それでは、直近ですと今週末の金曜日、16時に予約ができますが——』

「そこをお願いします」

『わかりました、担当はマイルズ医師です、当日15時30分までに総合受付を済ませて、45分までに婦人科の窓口で診察券をお出しく下さい』

「わかりました、ありがとうございます」

『では、失礼いたします』

「では」と答える前に、通話は切れていた。

スマホを放つて、腰掛けているベッドにそのまま仰向けに倒れた。

僕を怪しむ女性の口ぶりを思い出すと泣きたくなくて、思わず「クソ」と毒づいていた。

* * *

3日後の金曜日。

5限を早退した足で、地下鉄の駅に向かった。病院へは南へたった一駅。最寄りのムーアゲート駅から病院まで、どれだけのんびり歩いても10分もかからない。

セント・バーソロミュー病院を選んだのは、僕のかかりつけの